



—全国小学校英語活動実践研究大会京都大会報告1—

先週3日(金)・4日(土)、京都市で開催された全国小学校英語活動実践研究大会に参加してきました。

第1日目は、こんなシーンで始まりました。

朝5:30、JR東室蘭駅。「5:41発、札幌行き特急すずらんをご利用のお客様にお知らせします。ただいま車両凍結により、列車が始発の室蘭駅に向かうことができないしております。お急ぎのところ大変申し訳ありませんが・・・。」

「まずい！飛行機に間に合わない！どうする？あつた！高速バス5:49発！でもバスの方が時間が・・・！ギリギリ間に合うか！」

7:30、新千歳空港着。離陸予定時刻5分前！結局、搭乗は1分前！ひやひやの朝からスタートしましたが、その後は順調。

13:30、ようやく第3会場の京都市立大藪小学校に到着しました。

公開授業開始は14:00。写真は、3年生から6年生の授業風景です。



▶ 「英語劇をしよう」
THE VERY HUNGRY
CATERPILLAR 参照



▶ “What’s this”
クイズ大会をしよう



▶ “What would you like?”
「Yoyabu Village」を開催しよう



▶ “Let’s go to Italy.”
「友達を旅行にさそおう」
※参観者が多過ぎて・・・、入れない。

いずれの公開も、学級担任の先生方が熱い思いをもって授業をされているのが伝わってきます。授業内容にも、様々な工夫がちりばめられています。思わず英語を言いたくなるような、そんな場面設定・状況設定が考え抜かれています。単元のゴールとなるタスク活動が担任の先生に明確にイメージされているので、どんな布石を打てばよいのかが明らかなんだろうと思います。参観者の先生方も、そんな質の高い授業から多くのことを学ぼうと熱心に活動に見入り、メモを取ります。「実践」研究大会ならではのです。

その後、15:00から事後研究会です。京都市英語教育推進拠点校としての大藪小の取組報告、ならびに研究協議が行われました。

大藪小からは、教科化に向けた準備として、3・4年生は35時間、5・6年生は55時間を設定していること、週1で月曜日にモジュール(15分)を試行していること、3観点(表現・理解は5領域)で評価に取り組んでいること等が報告されました。

※3観点・・・(1)コミュニケーションへの関心・意欲・態度、(2)外国語の表現・理解、(3)言語や文化に関する気付き

5領域・・・上記(2)外国語の表現・理解について、①聞くこと、②話すこと(発表)、③話すこと(やり取り)、④読むこと、⑤書くこと、の5領域で目標を設定(単元によっては、①～⑤のどれかが設定なしの場合もある)

モジュール・・・45分で行った活動をくり返し行うなど、基本的には単元との関連性を図る

フロアからは、やはりモジュールや評価について詳細を尋ねる質問等が出されていました。

まとめは、北海道教育大学札幌校教授 萬谷隆一先生の指導助言です。

(1)場面・状況に込められた言語活動を仕組むこと・意識すること(こんな場面で○○のために、○○と○○がどんなやり取りをするフレーズなのか)、(2)言いたい・聞きたいことがあるか、相手に応えるやり取りがあるか、自由度がある会話へ発展する余地があるか、などの相手意識、(3)45分との関連や何をやるか(予習なのか・復習なのか)といったモジュールの計画性、(4)できる・できないという“Can-Do評価”では測りきれない中間的な評価(友だちとの比較ではない評価)、(5)慣れ親しみの活動をどうパワーアップさせるか、「習得」をどう高めていくか

といった、5つの視点から学校としての取り組みを見つめ直していただくことを提案されていました。

室蘭市教育研究会外国語活動部会でもお世話になっている萬谷先生は、このように全小英研の顧問も務められ、毎年のようにどこかの授業会場や分科会の指導助言をされています。本市においても、英語教育専門の立場から様々な情報提供や指導助言をいただけるのは本当にありがたいことです。

16:30、第1日目終了です。いつもながら、全小英研参加は体力勝負の面があります。

第2日目の様子は、また次号で。(No33の予定)



▶ 6年生は、途中で会場を移動して、「入国審査」に見立てた会話活動を行いました。